

# 大分★農・カーボンプロジェクト

## 大分県の有機農業の現状と課題



NPO法人 おおいた有機農業研究会

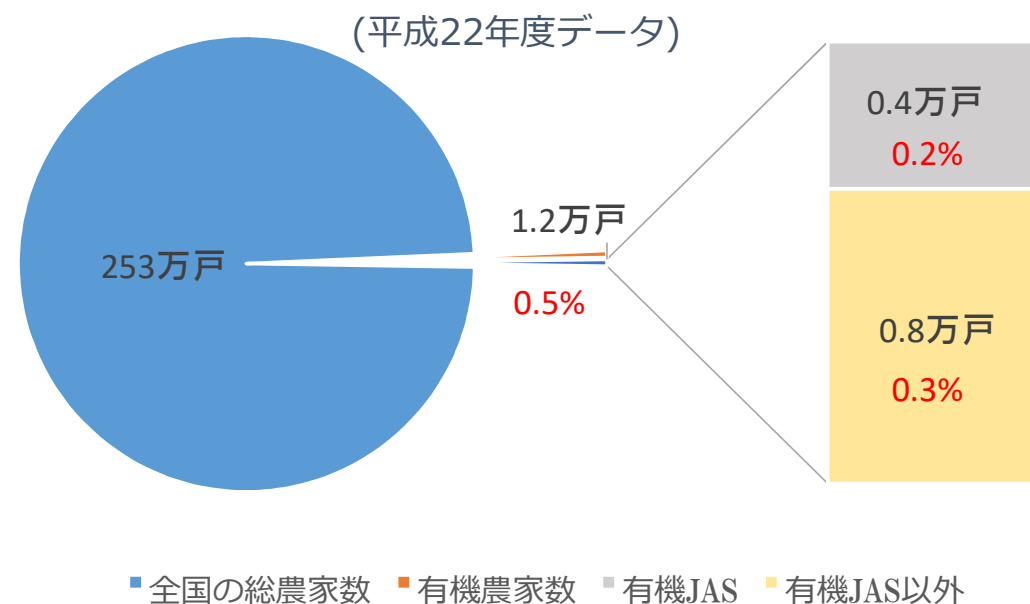
# 有機農業の定義と全国の有機農家の現状

## 有機農業の定義

有機農業の推進に関する法律第2条  
(平成18年法律第112号)

化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。

## 有機農業に取り組んでいる農家数



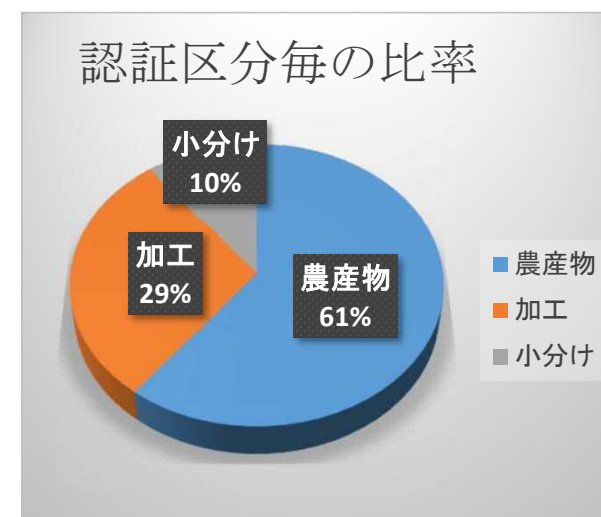
## 大分県の有機農家の現状 当機関所管分

統計情報R3年版 わがマチわがムラ						
	耕地面積(ha)	総農家数(戸)	有機圃場面積(ha)	有機圃場面積率(%)	有機JAS農家数(戸)	有機農家比率(%)
宇佐市	7,890	2,720	63.9	0.81	5	0.18
臼杵市	2,370	1,507	19.0	0.80	5	0.33
大分市	3,930	3,733	2.6	0.07	1	0.03
杵築市	3,430	1,630		0.00		0
玖珠町	2,050	1,414		0.00		0
国東市	3,800	2,136	2.1	0.06	3	0.14
九重町	1,970	1,097	9.2	0.47	2	0.18
佐伯市	1,910	1,891	1.0	0.05	2	0.11
竹田市	6,460	2,507	11.3	0.17	3	0.12
津久見市	288	173		0.00		0
中津市	3,820	2,710	1.9	0.05	1	0.04
日出町	741	664	1.7	0.23	1	0.15
日田市	3,310	3,308	7.2	0.22	3	0.09
姫島村	35	66		0.00		0
豊後大野市	6,080	2,933	7.2	0.12	2	0.07
豊後高田市	3,000	1,292	17.3	0.58	6	0.46
別府市	341	353	6.2	1.82	2	0.57
由布市	3,310	1,820	14.9	0.45	3	0.16
大分県全域	54,735	31,954	165.5	0.30	39	0.12

## 当機関所管の有機JAS認証事業者

おおいた有機農業研究会所管の認証事業者（県外含む）

認証区分	件数
有機農産物生産行程管理者	52件（内きのこ11件）
有機加工食品生産行程管理者	25件（内きのこ10件）
小分け業者（農産物）	3件
小分け業者（加工食品）	6件
延べ認証事業者数（重複認証含む）	86件
実質認証事業者数（重複認証含まず）	67件



2022年1月31日現在

## 有機JASマークと認証の対象



### 有機JAS認証の対象

- ① 有機農産物
- ② 有機加工食品
- ③ 有機畜産物
- ④ 有機飼料

### 有機JAS認証を取得する対象

- a. 生産行程管理者
- b. 小分け業者
- c. 輸入業者

# 有機JAS認証とは



## 生産に係わる行程を認証する制度

農産物の場合、認証の対象となるのは、生産され、JASマークを付けて出荷される作物ではなく、**その作物が生産されるために経てきたすべての行程（プロセス）**

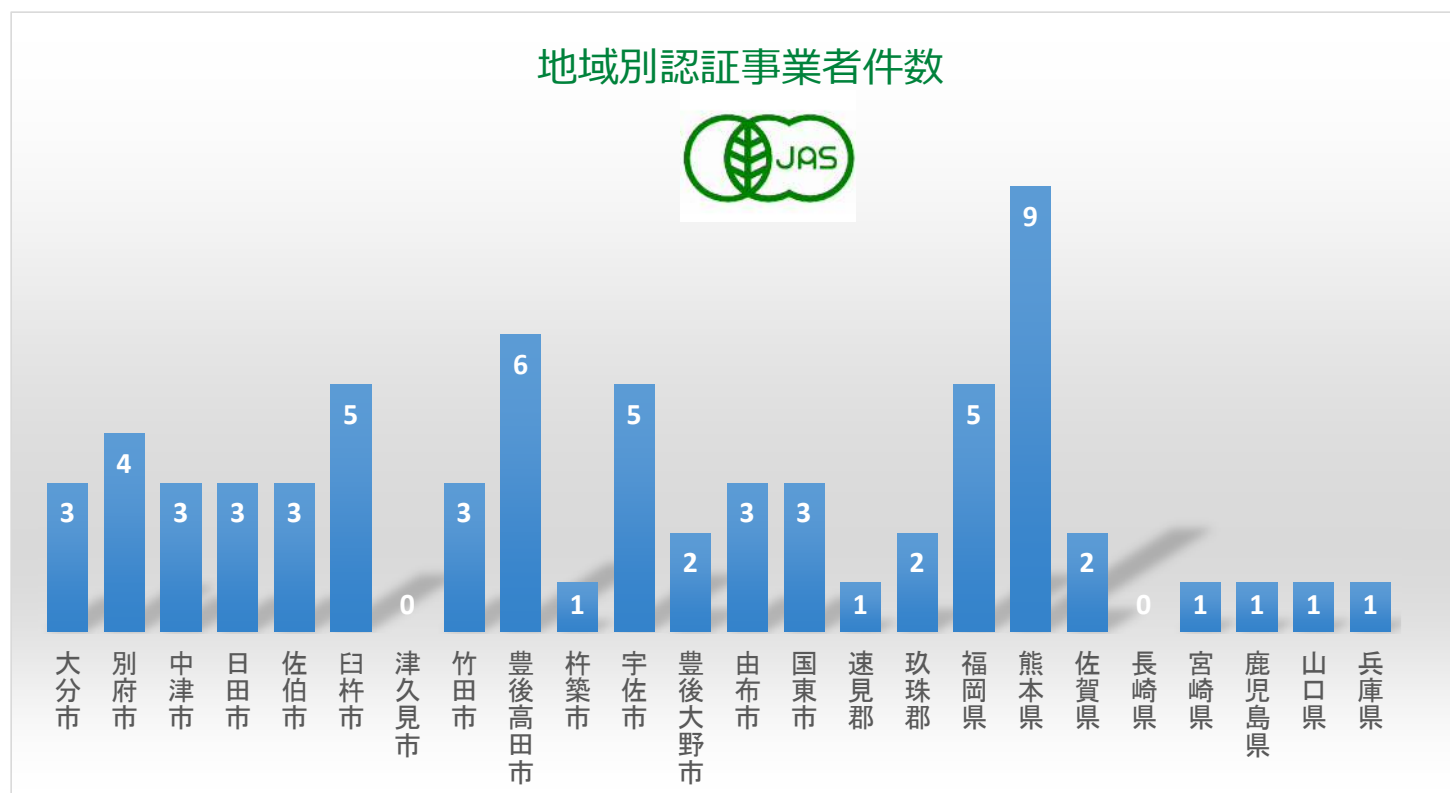


ほ場、種苗・育苗、肥培管理、病害虫防除、栽培計画・栽培記録、証票（JASマーク）管理記録など、その農場で生産された作物が、一貫して有機JAS規格では認められていない化学合成農薬・肥料などに汚染されたり、非有機生産物が混入してしまうようなリスクがないか、あるいはリスクがあってもそれを排除する措置が取られているかということを調査し、認証する。

# 当機関所管の地域別有機JAS認証事業者

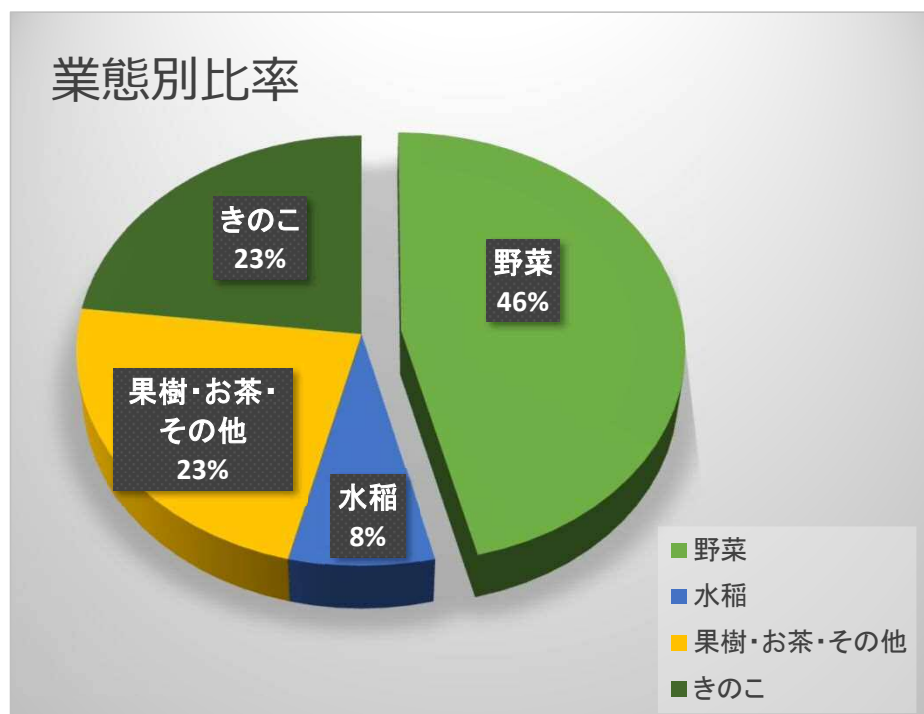
地域別認証事業者（県外含む）

2022年1月31日現在



## 当機関所管の県内の農産物の業態別有機JAS認証事業者

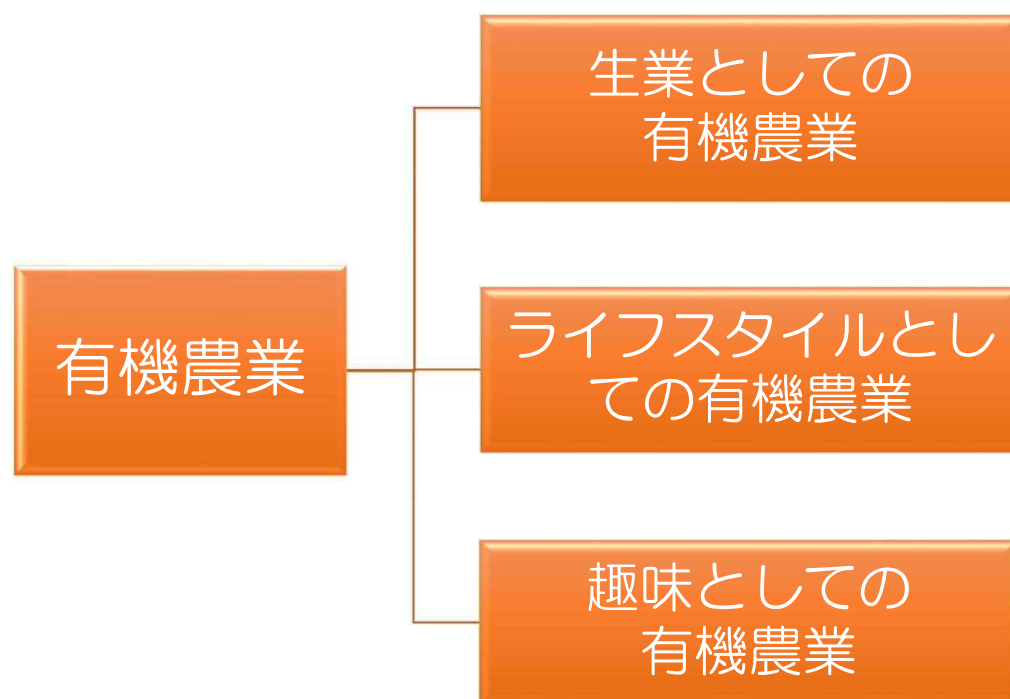
### 県内の農産物の業態別認証事業者



2022年1月31日現在

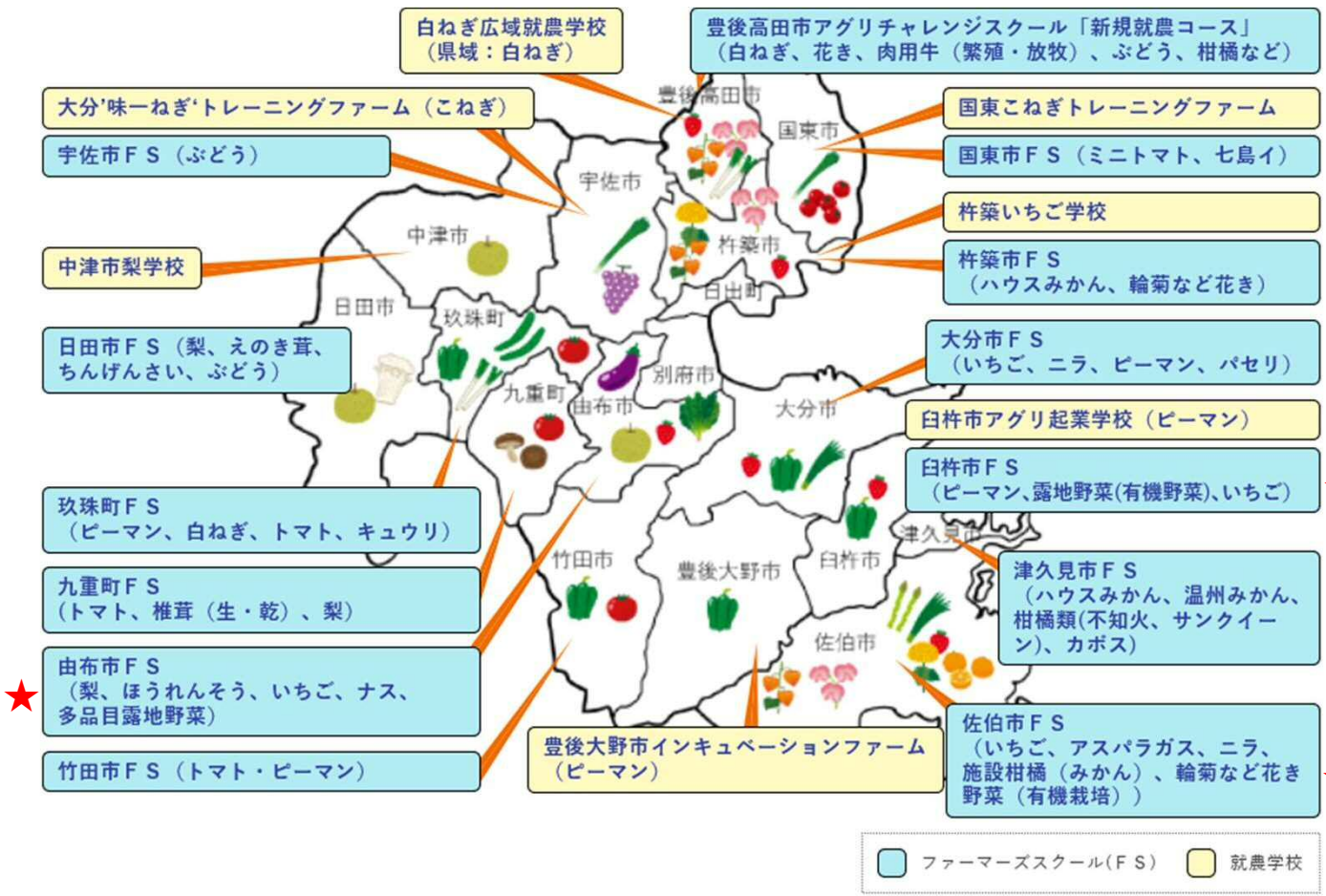
農産物の業態	認証事業者数
野菜	18件
水稲	3件
果樹・お茶・その他	9件
きのこ	9件
計	39件

# 有機農業者の拡充に向けての取組み①



- 市町村における有機農業推進計画の策定
- 市町村農政課に有機農業推進室の設置
- 市町村におけるファーマーズスクール制度に有機農業カテゴリーの追加
- 新規就農者や移住者が有機農業を選択する仕組みの確立
- 学校給食にオーガニック食材の導入
- 有機栽培技術習得の機会創出
- マーケティング能力の習得機会創出
- 有機野菜共同出荷組織への加入促進
- 有機JAS認証取得費用の支援

# 有機農業者の拡充に向けての取組み②



## おおいた有機野菜等生産出荷体制構築会議の道程と展望

### 2019年度

共同出荷体制の組織づくり  
を目的とした会議体制発足  
先進地視察等共同出荷  
体制を模索  
発足時の会員数21者

### 2020年度

前年度事業を継続  
現実的先進地視察  
県内外の市場ニーズ調査  
実施  
販路開拓等課題抽出  
会員数19者に減数

### 2021年度

前々年度事業継続  
栽培基準の統一化、ロット  
の確保等検討  
県内量販店との綿密な協  
議、単価交渉  
関東圏への出荷を視野に県  
内でモデル出荷を実現  
関東圏の市場ニーズ調査、  
既存販路活用の模索

### 有機農家の経営基盤の安寧

### 2022年度

独立した共同出荷組織の設立（企業としての形態）  
関東市場への出荷に向けた物流の交渉、確立  
構成会員数の拡大、有機JAS認証農家の創出



## 県内大型スーパーへのモデル出荷の実際



- ◎ いずれの商品も丁寧に調整・出荷されていて美しい
- ◎ 他県の有機農産物と比較しても遜色なし
- ◎ 低価格、慣行品同等もしくは20~30%高程度
- ◎ 消費者の認知度が低い、最終的には価格で購入
- ◎ 店舗あげてのチラシやポップを活用しての周知

# 構築会議が考える共同出荷の将来像



## 構築会議が考える理想的売りのイメージ



- ✓ 高所得者が多い地域の食品スーパー
- ✓ 献立の提案
- ✓ 売り場まるごとミールキット
- ✓ 時短用の加工品のラインナップ
- ✓ 野菜ソムリエの配置